

町田市廃棄物減量等推進審議会の運営についての要望書

09.10.9 町田発ゼロ・ウェイストの会理事長 広瀬立成

1 審議会の議論の進め方

これまでの審議会では、スケジュールが先行して、個々の課題について情報の共有と必要な議論がなされていない。メールの利用はあくまでも補助的なものであり、会議での議論の積み重ねが大切と考える。これまでもしばしば委員から重要な提案がなされたが、それについては、ほとんど審議が行なわれていない。

委員が情報を共有し、納得できる議論の場を再構築すべく、この段階で、審議会の議論の進め方を検討すべきである。

2 ごみゼロ市民会議の評価

ごみゼロ市民会議は、134名の市民委員と5名のアドバイザーが年間280回余の会議を行なったという、日本で初の大掛かりで熱のこもった社会実験である。この審議会は、この町田市民の莫大なエネルギーと情熱を真摯に受け止め、さらにそれを発展させつつ実現可能で意欲的な方針を提示することが責務である。

過去の議論を踏まえることなくゼロから議論するのでは、いつまでたっても進展はない。残念ながら町田市では、しばしばこのようなりセット方式がおこなわれたことがあったが、町田市の逼迫したごみの状況を考える時、これまでの轍を踏むことは許されない。市民会議の部会長など（まず、プラスチックと生ごみ）を交えた勉強会の開催を提案する。

3 環境先進都市をめざすビジョンを

中期経営計画にもあるように、町田市の重点政策の一つは、環境先進都市の創造にある。ビジョンは、そのような政策を実現するための先進的なものでなければならない。全体像が見えてこない、個別の課題（プラスチック、生ごみなど）の議論を深めることができない。

初めから完璧なビジョンを制定することは難しい。そこで審議を次のように進めながら、ビジョンと個別の課題についての最終案に収束するようにする。

ビジョン1 → 個別の課題1 → ビジョン2 → 個別の課題2 → 最終案

4 審議会での議論の深化のために

10年後のごみ政策を視野に入れつつ、徹底した調査と議論の場が必要であり、そのため、早急に以下の2つの作業部会発足させるよう提案する。1部会は、約8名の委員で構成し、3名を市民公募とする（なお、2000年の答申書を出した審議会でも、「プラスチック部会」「生ごみ部会」「広報部会」が設立された）。

- 1) プラスチック作業部会
- 2) 生ごみ作業部会

5 情報の提供と収集

ごみ問題は市民の協力と理解がなくては進まない。またごみゼロ市民会議とそれ以降の草の根の取り組みのなかで、多くの経験と知見を蓄積している市民も多い。このような町田市の状況を踏まえて、次の2点を提案する。

- 1) 審議会の情報を速やかに全市民に伝達するために、審議会メンバーと行政の協働による「審議会広報誌」を発行する。
- 2) 審議会には毎回、熱心な傍聴者が出席しているが、時間の許すかぎり傍聴者の発言を許して市民の声を会議に反映させる。